

平成26年度

水産業改良普及事業成果報告書



三重県農林水産部
水産経営課

平成 26 年度水産業改良普及事業成果集 目次

1 . 津農林水産事務所	
水産出前教室	1
普及項目：地域振興	
漁業種類：ばっち網漁業、底びき網漁業、藻類養殖、採貝漁業	
対象魚種：イカナゴ、カタクチイワシ、アサリ、クノロリ、アオノリ	
漁業者による漁業体験イベント等支援	3
普及項目：地域振興	
漁業種類：船びき網漁業、底びき網漁業、藻類養殖、採貝漁業	
対象魚種：イカナゴ、カタイクチイワシ、アサリ、ハマグリ、シジミ、クノロリ、アオノリ	
漁業者による魚食普及活動支援	5
普及項目：地域振興	
漁業種類：底びき網漁業、ばっち・船びき網漁業、採貝漁業、藻類養殖	
対象魚種：アサリ、ハマグリ、シジミ、ツメタガイ、スズキ、サワラ、アオノリ、クノロリ	
2 . 伊勢農林水産事務所	
黒ノリ養殖振興対策	7
普及項目：養殖	
漁業種類：藻類養殖	
対象魚種：クノロリ	
カヤモノリ新興対策	9
普及項目：養殖	
漁業種類：貝類養殖	
対象魚種：トリガイ	
イトノリ（ウスバアオノリ）の養殖試験について	11
普及項目：養殖	
漁業種類：藻類養殖	
対象魚種：アオノリ類	
複合養殖への活用をめざしたヒロメ養殖試験	13
普及項目：養殖	
漁業種類：藻類養殖	
対象魚種：ヒロメ	
3 . 尾鷲農林水産事務所	
ヒジキ場再生試験	15
普及項目：資源管理	
漁業種類：採介藻	
対象魚種：ヒジキ	

マハタブランド化に向けた取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

普及項目：流通

漁業種類：養殖

対象魚種：マハタ

イセエビ資源管理講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

普及項目：資源管理

漁業種類：刺し網

対象魚種：イセエビ

4．農林水産部水産経営課

新規漁業就業者の定着に向けた支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

普及項目：担い手

漁業種類：-

対象魚種：-

普及項目	地域振興
漁業種類等	ばっち網漁業、底びき網漁業、藻類養殖、採貝漁業
対象魚類	イカナゴ、カタクチイワシ、アサリ、アオノリ、クロノリ
対象海域	伊勢湾

水産出前教室

三重県津農林水産事務所水産室

宮口大平・藤島弘幸

【背景・目的】

漁業者及び水産業普及指導員が講師となって、小学生を対象に水産業に関する授業を実施した。これらにより、子供達に地元産業としての水産業の大切さや、水産業と自然環境との関わりを理解してもらい、関心を持ってもらうことを目的とした。

【普及の内容・特徴】

当事務所が用意したテーマに対し、応募があった小学校へ水産業普及指導員が出向き、ばっち網漁業等に関する座学を行った。また、別途漁業者に依頼のあった小学校に対しても漁業者とともに出向き、採貝漁業、藻類養殖業に関する授業を行った。合計 3 回実施し、対象とした児童は津市、松阪市及び明和町の 3 校の小学 3～5 年生で、のべ 111 名であった。実施状況の詳細については下表のとおり。

【成果・活用】

全ての出前授業に漁業者が参加し、スライドや映像資料、漁具などを用いて操業や加工の方法などを説明した。漁業者の生の声への児童の感心は高く、漁での喜び、獲れる魚の量や伊勢湾の生き物のことなど、様々な質問を漁業者に投げかけていた。

今後も、授業内容等を精査しながら継続していきたい。

表 授業の実施状況

月 日	テーマ名	小学校名	学年	児童数	内容
12月16日	松阪の漁業を学ぶ	松阪市立港小学校	5年生	50名	アサリ漁業、青ノリ養殖の説明とアサリの水質浄化能力の実験（松阪漁協漁業者7名が講師として参加）
1月24日	チリメンモンスターと伊勢湾のことを学ぼう	津市立明小学校	3年生	8名	ばっち網漁業の説明とチリメンモンスター探し（白塚漁協所属の漁業士2名が講師として参加）
2月5日	のりすき体験会	明和町市大淀小学校	3年生 4年生	53名	黒ノリ養殖の説明及び板ノリの加工（伊勢湾漁協所属の漁業者4名が講師として参加）

実施の様

12月16日 松阪市立港小学校



1月24日 津市立明小学校



2月5日 明和町立大淀小学校



普及項目	地域振興
漁業種類等	船びき網漁業、底びき網漁業、藻類養殖、採貝漁業
対象魚類	イカナゴ、カタクチイワシ、アサリ、ハマグリ、シジミ、クロノリ、アオノリ
対象海域	伊勢湾

漁業者による漁業体験イベント等支援

三重県津農林水産事務所水産室

宮口大平、藤島弘幸

【背景・目的】

漁業者自らが講師となり、一般の方に漁業の実態を説明し、漁業を体験してもらうことで、一般の方に伊勢湾の漁業に関心や親しみを持ってもらい、漁業活動への理解や魚食普及を図る。

【普及の内容・特徴】

一般の方を対象にした漁業体験イベント等で講師となる漁業者に対し、水産業改良普及指導員が効果的な資料の作成等の指導を行うとともに、漁業者とともに出向き、座学や漁場での漁業体験を支援した。合計 6 回実施し、対象者はのべ 362 名であった。実施状況の詳細については下表のとおり。

【成果・活用】

スライド資料や漁具、漁獲物などを用いて、漁業者が操業の方法や資源管理、漁場環境保全活動の取組などについて説明した。漁業者の生の声への一般の方の関心は高く、漁業の実態に理解を深めるとともに水産物に親しみを持ってもらうことができた。

表 漁業体験会実施状況

月 日	テーマ名	実施個所	参加人数	内容
7月1日	赤須賀の漁業	桑名市赤須賀	20人	ハマグリ・シジミ漁業の説明、ハマグリ・シジミの試食
7月5日	赤須賀の漁業	桑名市赤須賀	200人	乗船してのシジミ操業見学
7月19日	松阪の漁業	津市一身田上津部田 三重県総合博物館	36人	スライドや漁具を使った座学、アサリの水質浄化実験
8月23日	河芸の漁業	津市河芸町 マリーナ河芸	72人	スライドを使った座学、漁具展示、地びき網体験、干物づくり体験、ロープワーク
9月13日	干潟の観察会	桑名市赤須賀	30人	漁業生産の場である干潟の観察会と、生物や漁業の説明
10月17日	赤須賀の漁業	桑名市赤須賀	4人	ハマグリ・シジミ漁業の説明、乗船してのシジミ操業見学、ハマグリ・シジミの試食

実施の様様

赤須賀の漁業者の取り組み



松阪の漁業者の取り組み



河芸の漁業者の取り組み



普及項目	地域振興
漁業種類等	底びき網漁業、ばっち・船びき網漁業、採貝漁業、藻類養殖
対象魚類	アサリ、ハマグリ、シジミ、ツメタガイ、スズキ、サワラ、アオノリ、クロノリ
対象海域	伊勢湾

漁業者による魚食普及活動支援

三重県津農林水産事務所水産室
宮口大平・藤島弘幸

【背景・目的】

伊勢湾で水揚げされる水産物の多くは県外へ出荷され、地域で消費されていない現状がある。そのため、地域住民の漁業に対する関心は薄く、地元でどのような水産物が水揚げされているのかわからない人が増えてきている。

そこで、漁業者自ら魚食普及に取り組むことにより、地域住民に対して漁業の理解促進と地元水産物の知名度向上を図ることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

各地域の青壮年部、漁業士が中心となり、地域のイベント等で地元水産物を試食提供・販売するとともに、飲食店と連携した取り組みを行った。

赤須賀漁協青壮年部研究会（ハマグリ、シジミ）

- ・市外で開催されたイベントに参加し、ハマグリ、シジミの販売を行った(図1)。
- ・赤須賀地区の漁業や漁村を紹介する資料「赤須賀漁師の伝言板」やハマグリ、シジミの紹介資料を作成し、イベント等で展示・配布した。
- ・市民等を対象とした漁業現場の見学会を行い、漁業や漁場環境の説明を行うとともに、焼きハマグリやシジミ汁を提供した。

白塚漁協青壮年部（スズキ、サワラ、ツメタガイ）

- ・一般的な旬が春から夏と言われるサワラ、スズキは、伊勢湾では秋に脂がのり美味であることをPRするため、11月及び12月の地域イベントで試食及び販売を行った(図2、図3)。
- ・アサリの食害生物であるツメタガイが食用になることをPRするため、12月の地域イベントで試食を行った(図4)。

松阪漁協青壮年部及び女性部（アサリ、アオサ）

- ・アサリやアオサを手軽に味わってもらうために開発した、たこ焼き風の「アサリ玉」及びお好み焼き風の「アオサ焼き」を地域内外のイベントで提供した(図5)。
- ・地元の主要な漁獲物であるアサリのうま味を生かした「アサリご飯」及び「カレーうどん」を地域のイベントで販売した(図6)。

【成果・活用】

いずれの料理も好評で、イベントで準備した商品はほとんど完売した。また、活動の趣旨を理解いただき、継続を求める消費者の声もあった。今後も、イベント出店と合わせて商工会や飲食店等の多様な主体と連携するなど、活動の展開を図り、引き続き地元水産物や地域のファンづくりを行って、水産物の消費拡大に努めていきたい。



図1.ハマグリを販売



図2.サワラ及びスズキの切り身を販売



図3.店頭デモによりおいしい食べ方を提案



図4.ツメタガイの食用普及を目指し試食を実施



図5.アサリ、アオサの手軽でおいしい食べ方を開発し販売



図6.アサリのうま味を生かした料理を販売

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	黒ノリ
対象海域	伊勢市

黒ノリ養殖振興対策

伊勢農林水産事務所水産室 上原 裕一

【背景・目的】

伊勢市内の黒ノリ養殖は、県内の中堅地域として生産が続いてきたが、近年は高齢化により廃業が目立って増え、経営体数が激減している。しかし、伊勢市二見町今一色においては30代の青年漁業士が育っており、福岡、熊本などの主要産地への視察など、地区青年部を中心に他県先進地との交流を深めるとともに、情報交換を活発に行っている。そこで、これらの地域において、養殖情報交流の促進、県民の水産業に対する理解促進をめざした食育の実施ほか、養殖業者が黒ノリ養殖を続けていくために必要な支援を実施した。

【普及の内容・特徴】

養殖業者が黒ノリ養殖を実施するために必要な情報提供を図るため、平成26年10月から平成27年2月まで、漁協または養殖業者から黒ノリ養殖情報の聞き取り調査を行い、三重漁連が編集する「三重県のり情報」として養殖業者へ情報提供した。

その他、技術指導としてノリ芽診断、冷凍網アンケートを実施するとともに、三重県漁業士会南勢志摩地域部会事務局として、若手漁業者が主に参画するノリサミット（宮城県で開催）への参加助成申請等の支援を行った。

また、県民の水産業に対する理解促進をめざした食育の一環として、平成26年度に伊勢市が主催した水産教室で、地元小学校3校においてノリ養殖についての講義やノリ抄き体験における小学生グループの指導を担当した。

【成果・活用】

1 黒ノリ養殖情報にかかる情報収集

黒ノリ養殖情報は20報が発行され（図1）、その発行に合わせ、漁協や養殖業者への聞き取り調査や、養殖業者を対象としたノリ情報の解説、ノリ養殖に関する相談対応等を行った。

2 食育の実施

平成27年2月9日に市立宮山小学校で、2月19日に市立有緝小学校で、2月23日に市立二見小学校で、延べ150名に近い生徒（小学3年及び5年生）に対して、ノリ養殖についての講義を行うとともに（図2）、ノリ抄き体験を指導した。海苔抄き体験（図3）は生徒の人数により、児童1名につき1～3回ずつ体験してもらった。普段、板ノリの製造を目にすることのない児童は、ノリ抄き体験に目を輝かせ、熱心に取り組んでいた。

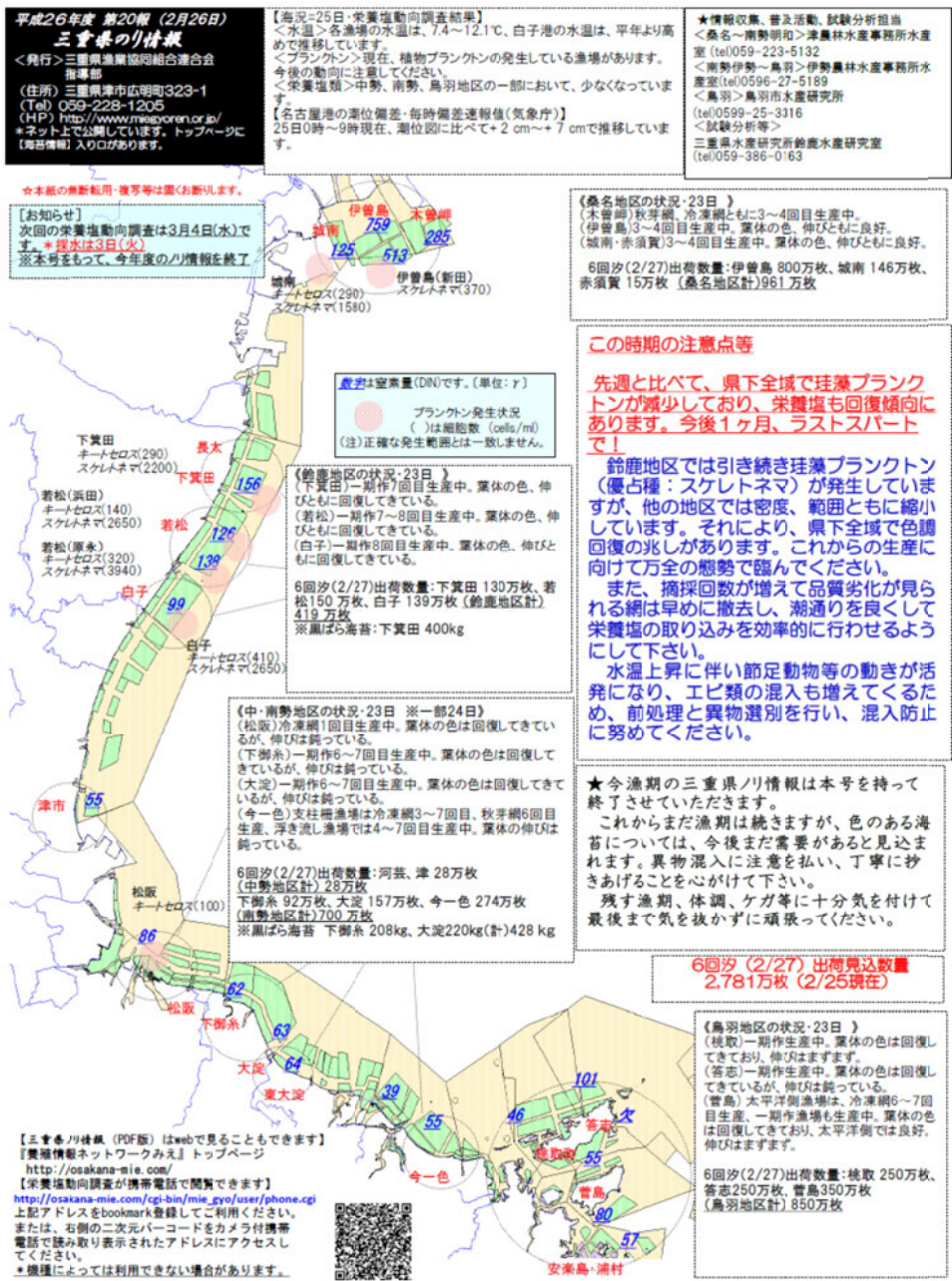


図2 伊勢市 室 菫義



図3 伊勢市水産教室ノリ抄き体験

普及項目	食育
漁業種類等	採介藻
対象魚類	カヤモノリ
対象海域	伊勢湾口

カヤモノリ振興対策

伊勢農林水産事務所水産室 森田和英

【背景・目的】

三重県では、伊勢湾口から熊野灘にかけて、多種多様な海藻が繁茂している。伊勢湾口に位置する鳥羽市では、ワカメやヒジキなど広く知られている海藻は全国へ向けて出荷されているが、他の多くの海藻は地域内消費に留まっており、海の七草（ヒジキ、フノリ、ウミトラノオ、フクロノリ、ホンダワラ、ワカメ等）などの取り組みを通じて周知を図るとともに、県内ではあまり知られていないアカモクについては流通拡大に取り組んでいる。

このほか、鳥羽市外で知られていない海藻の一つとしてケノリがある。ケノリは、カヤモノリ（*Scytosiphon lomentaria* (Lyngbye) Link）の若芽のことをいい、姿が髪の毛のように細いことからケノリと呼ばれている。古くは朝廷への貢物のリストに「毛海苔」と記載され、食用となっていた。一方、志摩市では、カヤモノリが成熟した状態で食されており、その姿からムギワラノリと呼ばれている。双方の地域の漁業者は、自分の地域の食べ方が美味しいと譲らないため、地域の食文化の発信と海藻食の地域外への普及を目的に、ケノリ（若芽）とムギワラノリ（成熟）の食べ比べコンテストを実施した。

【普及の内容・特徴】

地元でも商品として流通することが極めて少ない未利用・低利用海藻だが、お裾分けという風習によって、漁村には古くからの海藻食が現存している。健康食として都市部へ発信できる地域資源であり、自家消費に留まっていたものが換金商品へ変化することとなり、漁業所得の向上に資する。

コンテストの方法として、伊勢市内で乾燥させたケノリとムギワラノリのセットを販売し、後日、気に入った方へ投票してもらった。乾燥させたケノリやムギワラノリはごく少量が商品として冬場から春先に地元市場で流通しており、その際の単価は約 10,000 円/kg であるため、当コンテストでも同単価を引用した。伊勢市ではカヤモノリを食べる習慣がないため、コンテストという仕掛けを使って、参加（購入）しやすい雰囲気を作り出した。結果はケノリが僅差で勝利した。

【成果・活用】

鳥羽市や志摩市では食べ慣れている海藻だが、コンテストを行ったのは伊勢市に於いてであり、まずはチラシや口頭で調理方法の周知を行った。鳥羽市や志摩市では、海藻



を炙って“海藻らしい”香りを立て、ご飯や冷奴などにふりかけ、醤油などで味を調べて食している。他の食べ方では、汁物の浮き実や、天ぷらの衣にしている。鳥羽市の「海藻のパンフレット」では、塩と混ぜて、ケノリ塩を紹介している。

この活動を継続することで、漁村では思いつかない新しい食べ方の提案を受けたり、新たなマーケットを開拓しながら、漁業者にカヤモノリの商品化を提案していきたい。

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	アオノリ類
対象海域	的矢湾

イトノリ（ウスバアオノリ）の養殖試験について

伊勢農林水産事務所水産室 永田健

【背景・目的】

的矢湾でのヒトエグサ養殖は昭和 20 年代から始まり、昭和 40 年代の最盛期の生産量は 450 トンあったものの、湾奥部の伊雑ノ浦では平成 10 年頃から原因不明の不作により生産量の減少が続き、現在ではほとんど生産できない状況となっている。

近年、青のりとして利用されるウスバアオノリが本海域で自生していることが確認され、地元ヒトエグサ養殖業者によりイトノリ研究会が設立され、ヒトエグサに代わる養殖対象種として、養殖技術確立のため天然採苗試験や養殖試験に取り組んでいる。

【普及の内容・特徴】

平成 23 年度末の研究会設立から、平成 24 年度漁期は自生する天然ウスバアオノリを共販へ試験出荷（7,900 円 / kg × 8 kg）、平成 25 年度は天然採苗試験及び養殖試験により共販への試験出荷（3,911 ~ 5,700 円 / kg × 31 kg）に取り組んできた。落札価格からも分かるように共販での評価は高いものの、天然採苗時の種網への黒ノリ類の混雑や養殖時の干出調整などに課題が残り、安定した生産には至っていない。

平成 26 年度は、黒ノリ類の混雑を防ぐため、昨年度の採苗地点より淡水の影響が強いと考えられる河口域で天然採苗試験を実施した。また、採苗後の種網を適宜移設し、育苗・養殖試験を実施した。

【成果・活用】

研究会メンバーにより、10月8日に磯部川河口部（志摩市磯部町下之郷地先）において、天然採苗試験を開始し（写真1）、同月27日に生長した葉体（約10cm）を確認することができた（写真2）。黒ノリ等の混雑もなく、今回設定した採苗地点において、安定した採苗が可能であることが分かった。

前述の天然採苗試験により得られた種網を、10月下旬から育苗・養殖のため伊雑ノ浦東部（志摩市磯部町飯浜地先）に随時移設した。11月下旬、種場では順調に生長したものの（写真3）移設した網の葉体が急激に短くなった。鳥類の蟻集状況や漁業者による目撃情報から、鳥類の食害が原因と考えられる（写真4）。その後、防鳥のためテグス糸を設置したが、食害を完全に防ぐことはできず、漁期を通じて葉体が大きく生長することはなく、今漁期は製品出荷には至らなかった。

これまで2年間、研究会が天然採苗と養殖試験に取り組んできているが、未だ安定した生産には結びついていない。採苗については、現在の天然採苗の方法で可能であるため、今後は防鳥ネットによる食害対策や、雑海藻類の影響の少ない海域での育苗・養殖を検討する必要がある。



写真1 天然採苗開始時の様子



写真2 種網から生長した葉体



写真3 11月下旬の種網



写真4 食害にあったと考えられる網

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	ヒロメ
対象海域	南伊勢町、大紀町

複合養殖への活用をめざしたヒロメ養殖試験

伊勢農林水産事務所水産室 南 勝人

【背景・目的】

ヒロメの知名度向上と一部海域にしか生息しない特性を生かした特産品化をめざし、東紀州を中心に養殖の実用化に取り組んできている。

昨年度、南伊勢町、大紀町で養殖試験を実施した結果、南伊勢町の各地区（迫間浦地区、神前地区、古和浦地区）では他の藻類が巻き付くなどヒロメの生育が悪く、収穫には結びつかなかったが、大紀町錦地区では試験を実施した2地区のうち1地区で約300kgのヒロメを収穫できた。そこで、引き続き、魚類養殖との複合養殖への活用をめざして、魚類養殖が盛んな南伊勢町及び大紀町で、魚類養殖漁場でのヒロメ養殖試験を行った。

【普及の内容・特徴】

南伊勢町では南伊勢町南島種苗センターでヒロメの種系を生産し、南伊勢町内の生産希望者に種系を配布する仕組みの構築を行った。まず、円滑に取組を進めるため、平成26年6月16日に南伊勢町と三重大学前川教授との協議を行い、前川教授の助力を得る体制とした。その後、南伊勢町南島種苗センターで三重大学から提供を受けたヒロメの遊走子（種）を用いた種系の作成試験を行った。

また、古和浦では、平成25年度に三重大と中部電力が実施したヒロメ養殖試験は成功していたことから、地域水産業振興計画スタートアップ事業を活用して、塩蔵用の機材を導入し、ヒロメの塩蔵試験を実施した。

大紀町錦地区では本格的な生産をめざす養殖試験を実施した。試験養殖に成功した水域に養殖用の側張りを設置し、12月8日から1,000mの種系を用いた試験養殖を開始し、1月下旬から段階的に収穫した。

【成果・活用】

南伊勢町では南伊勢町南島種苗センターで400mの種系の作成に成功した。そこで、迫間浦地区でこの種系50mを用いた試験養殖を実施し、32kgのヒロメを収穫した。

また、古和浦では三重大や中部電力と連携したヒロメ養殖試験を実施し（種系は鳥羽市水産研究所で作成）、平成27年2月3日に234kgのヒロメを収穫し、塩蔵作業を実施した。

大紀町錦地区では2.5トンのヒロメが収穫できたことから（写真3～5）、本格的な生産が可能であることがわかった。

【その他】

南伊勢町及び大紀町でヒロメ養殖が可能であることがわかったことから、平成27年は、南伊勢町では古和浦地区以外の地区での養殖試験、大紀町錦では生のまま保存試験等に対して町や水産研究所、栽培漁業センターと連携して支援を行うなど、ヒロメの本格養殖に向けた体制づくりを進めていく。



写真1 古和浦地区でのヒロメ養殖及び塩蔵試験



錦地区でのヒロメ養殖及び塩蔵試験

普及項目	資源管理
漁業種類等	採介藻漁業
対象魚類	ヒジキ
対象海域	紀北町海野

ヒジキ場再生試験

尾鷲農林水産事務所 水産室 中瀬 優

【背景・目的】

紀北町紀伊長島区海野では、春先のヒジキ漁が一つの漁業の柱となっている。近年、環境の変化などにより、ヒジキの被度が低くなってきており、地元漁業の維持のためにヒジキ群落の確保が必要となってきている。そこで、海野地先にてヒジキの増殖が可能であるかどうか調べることにした。

【普及の内容・特徴】

海野漁協に対し、他地区でのヒジキ増殖の実績経験がある三重大学の前川教授を紹介し、平成 26 年 4 月 10 日に海野へ前川教授を招いた。そこで、五ヶ所湾などで行われているヒジキ増殖のための磯掃除および種子散布についての説明をいただき、海野で同様の方法が可能か検討を行った。

次に 5 月 28 日に、普及指導員主導で海野漁協所属の漁業者らと海野地先の中崎において磯掃除を行い、フジツボやイガイなどの付着生物を除去した。その後、6 月 11 日にヒジキ母藻を採取し、陸上水槽にて 5 日間静置することでヒジキ受精卵を回収した。6 月 16 日に再び漁業者を招集し、回収した卵を磯掃除した地点に散布した。

【成果・活用】

平成 26 年 11 月に海野地先の卵散布地点を確認したところ、ヒジキの幼体が見られたことから、磯掃除及び卵散布の効果があったと考えられる。また、この活動を通して、海野漁協所属の漁業者にヒジキ資源増殖の効果と必要性を体感してもらうことができた。

【その他】

本活動は、海野漁協の取組として次年度以降も継続する計画があり、平成 27 年度には水産多面的機能発揮対策事業における三野瀬活動組織の活動の一環として、地元小学生にヒジキの卵散布を実施させる予定である。



写真 1 : 磯掃除の様子



写真 2 : 卵採取用水槽



写真 3 : ヒジキ卵散布の様子



写真 4 : ヒジキ幼体

普及項目	流通
漁業種類等	養殖
対象魚類	マハタ
対象海域	尾鷲市

マハタブランド化に向けた取組について

尾鷲農林水産事務所 水産室 明田 勝章

【背景・目的】

近年のマダイ養殖業は餌料価格の高騰と魚価の低迷により厳しい状態が続いていることから、一部魚種を他魚種へ転換することによって、多角的な養殖に切り替える動きも出ている。なかでも、比較的魚価の高いマハタはウイルス性神経壊死症（VNN）用ワクチンの認可や種苗選別技術の向上によって、良質の種苗供給が可能となってきており、新たな養殖魚として注目され、養殖業者も増加してきている。養殖魚種の多様化は漁家経営の安定化にも寄与するものと考えられるが、マハタの知名度は一般的にそれほど高くなく、今後、県内外での養殖生産量が増加して供給過多とならないよう、マハタの認知度向上・ブランド化による需要の底上げを図ることが必要である。

【普及の内容・特徴】

- ・尾鷲市内で養殖生産されるマハタを「おわせマハタ」としてブランド化する取組を行う「おわせマハタ協議会」の活動支援を行った。
- ・尾鷲市内で行われたイベントや東京日本橋にある三重県のアンテナショップ「三重テラス」でのイベント、尾鷲市内飲食店へマハタを提供することで認知度向上につなげた。
- ・尾鷲市内で「おわせマハタ」を食べられる仕組み作りの支援を行った。

【成果・活用】

市内飲食店7店舗をおわせマハタ協議会による登録取扱店として認定する等、尾鷲市内でマハタ料理が食べられる仕組み作りを推進した。その結果、「臭みがない」「地元尾鷲の名前が付いているので客に勤めやすい」等、高く評価され、従来は天然物しか扱わなかった飲食店でも取り扱う等、市内での消費拡大につながった。また、大手回転寿司チェーン店で期間限定商品として扱われるなど、全国的な需要も拡大してきている。



写真 1 : マハタポスター



写真 2: イベントでの出店

普及項目	資源管理
漁業種類等	刺網漁業
対象魚類	イセエビ
対象海域	紀宝町井田

イセエビの資源管理講習会

尾鷲農林水産事務所 水産室 小林 智彦

【背景・目的】

紀宝町井田地区では、これまで地先資源の増大を目指して、つきいその整備に取り組んできた。地区の主な漁業である刺網漁業では、イセエビを漁獲することから、ハード面のつきいそ整備とあわせて、ソフト面の取り組みとして自主的な休漁期間を定めた資源管理計画を設け、イセエビの資源管理を行うことで資源の増大を図っている。

【普及の内容・特徴】

イセエビの資源管理を目的とするソフト事業を行うために、立ち上げられた紀宝町産地協議会の取組の一環として、担当普及指導員が講師となり、漁業者、漁協職員等にイセエビの資源管理講習会を行った。基礎知識として、イセエビの生活史や分布状況から説明を行い、イセエビを増やすための取組方法、資源管理の考え方について話をした。また、更なる資源管理を考えるきっかけとなるよう、他地域の取組について紹介した。

【成果・活用】

資源管理の講習会を行うことで、漁業者に資源管理の重要性を再認識してもらうことができた。講習会後は、漁業者同士が地区のつきいそ整備状況を図面で確認し、地先漁場の状況や自らの資源管理の工夫(網の枚数制限、1枚網での漁獲等)、他地域での資源管理取組内容について話し合い、今後の取組に生かそうとする姿が見受けられた。

【その他】

本活動は、紀宝町産地協議会の取組の一環として行われた。今後は、普及指導員からイセエビの資源管理をしている先進地の取組や情報等を積極的に発信し、地区の漁業者等が更なる資源管理を行うことができるようサポートしていく。



写真 1 : 講習会の様子



写真 2 : 説明を聞く漁業者等



写真 3 : 講習会后、話し合う漁業者等

普及項目	担い手
漁業種類等	-
対象魚類	-
対象海域	県内全域

新規漁業就業者の定着に向けた支援

農林水産部水産経営課 沖 大樹

【背景・目的】

漁業者の高齢化や若者の流出による漁村人口や漁業就業者の減少は、水産物の供給面だけでなく漁村の多面的機能の低下に繋がる。この問題を解決するためには、漁業就業を希望する若者等の就業を円滑に進める仕組づくりを構築し、新規漁業就業者の確保・育成が必要とされている。今回、多様な担い手の確保・育成に取り組むことを目的に漁業就業の際に生じている課題解決に向けた取組を実施した。

【普及の内容・特徴】

多様な担い手の確保・育成を展開する際の課題を整理し、下記の取組を実施した。

知識や技術の習得に必要な学習資料の整備

漁業協同組合が取組む新規就業者の支援に対する経費補助

担い手の確保・育成の実現に向けて関係者が協議を行う協議会の構築と運営支援

【成果・活用】

県内漁業に関する知識や技術習得に必要なテキストとして「三重の水産」、「ライフジャケットの役割について」、「漁業と気象について」、「魚類養殖について」を作成した。また、伊勢湾の主要漁業であり雇用就業が見込まれるバッチ網（船びき網）漁業の漁労作業を紹介するための操業映像 DVD を作成した。

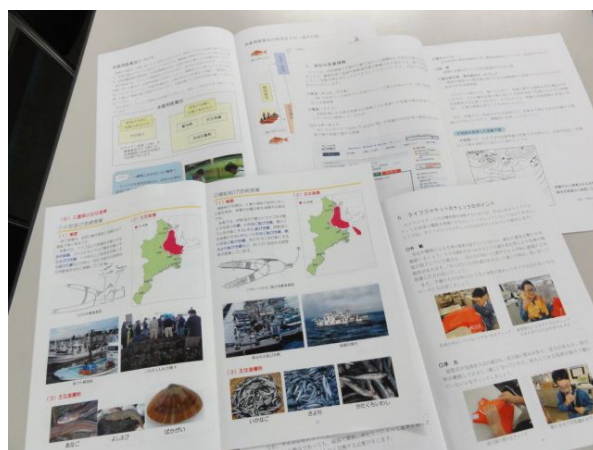
漁業協同組合が新規就業者にリースするための漁船 1 隻（1.9 トン）を整備する経費の一部（総事業費 1,093 千円、補助率 1/3）及び新規就業者の不安定な収入対策として漁業協同組合が販売事業で新規就業者 2 名を臨時雇用した際の経費の一部（総事業費 328 千円、補助率 1/2）を補助した。

沿海 16 市町、農林水産支援センター、漁連、水産系統団体、水産高校及び県の計 25 関係機関で構成される三重県漁業担い手対策協議会を設立し、下記の 6 課題について協議した。

- ・情報共有・連携の強化
- ・支援策と支援体制のあり方
- ・担い手育成の今後の体制
- ・担い手確保に向けた活動の展開

- ・ 就業後の支援策の展開
- ・ 漁村の取組のあり方

今後、多様な担い手の確保・育成の取組を進めるためには、関係機関が連携し、知識や漁労技術を効率的に修得できる体制構築、定着率向上のための支援策の検討と実施、就業希望者を受け入れる地域の拡大に向けた取組が必要である。



作成したテキスト（４種）



リースのため整備した中古漁船



担い手対策協議会の様子

発行

三重県農林水産部水産経営課

〒514-8570

津市広明町13番地

TEL 059-224-2606

FAX 059-224-2608